

課題名

卵巣癌再発後の長期生存に関する多施設後方視的検討

概要

医学の進歩は著しく、婦人科がんの治療も日進月歩ではありますが、依然卵巣癌は完治が難しい疾患です。特に再発した場合は、完治を目指すことは困難とされています。

卵巣癌が再発した場合、手術や抗がん剤を組み合わせる治療を行いますが、手術は負担が大きい手術になることが多く、手術が選択されない場合も沢山あります。しかし一般に「がん」は抗がん剤だけで完治する事が困難であるとされており、手術を「適切に」選択することが病気の制圧に重要であるとされています。

卵巣癌を発症しその後再発してしまった患者さんにとって、いつ、どの様な手術を、どの様な患者さんに対して行うことがもっとも患者さんの利益になるのか、といったことは依然十分に解明されていません。

そこで、多施設で共同して過去の治療データを解析することで、これらの未解明な問題点を解明する為の疫学研究を行います。

対象

1998年1月から2019年7月までに当院で卵巣癌・卵管癌・腹膜癌として治療された患者さん

疫学研究の情報公開について

疫学研究とは、人の病気の原因・病態の解明、および予防・治療の方法の確立を目的とする研究です。過去の診療記録より得られた情報を利用して、現在まで行われた婦人科癌の診断・治療の評価を行い、そしてより良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように、疫学研究を行っています。

疫学研究は、当院 倫理委員会の承認を得た後、研究責任者の管轄のもとに行われます。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため、対象となる患者さんにあらたにご負担をおかけすることはありません。また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重され、患者さん個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。

もし、疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は、下記までご連絡ください。解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また研究に関して、ご不明の点がございましたら、いつでも病院までお問い合わせください。

【研究代表者】

江本 郁子 (えもと いくこ)

(独) 国立病院機構京都医療センター 産科婦人科

TEL : 075-641-9161